

## 第1学年1組 生活科学習指導案

### 1. 単元名 「いきもの と なかよし」

### 2. 指導観

- 本学級の子どもは、いつも遊んでいるアスレチック広場に虫が見られるようになると、虫捕りをはじめている。しかし、見付けることに一生懸命になってしまい、捕まえた虫をそのままにして死なせてしまったり、小さな虫かごに何匹もの虫を入れていたりするなど生き物を大切に世話しようという意識はまだ育っていない。

活動においては、ほとんどの子どもが出会った対象に興味をもち、積極的に関わることができるが、思ったことや気付いたことを友達同士で進んで伝え合うまでには至っていない。

- 本単元は、学習指導要領の内容(7)「動植物の飼育・栽培」を受けて設定したものである。本単元のねらいは、校庭などの草むらで生き物を探し、捕まえた生き物を観察したり、すみかやえさを用意して飼ったりする活動を通して、それらの生息している場所の特徴や、変化や成長、生き物は生命をもっていることなどに気付き、生き物の立場に立ってすみかや世話の仕方などを考え、生き物に親しみをもつことができるようにすることである。子どもが生き物を育てたいという気持ちを抱き、自らの手で継続的に生き物の世話をして、愛着を持って関わることができるようにする。このことを通して、生き物も自分たちと同じように生命があること、成長していることに気付くとともに、生き物を大切にすることができるようにする。また、飼育活動の中で生き物のことを考えた世話ができるようになった自分の成長や頑張りにも気付くようにしたい。

### 3. 本単元における主体的・対話的で深い学び、学習評価の工夫

#### ① 試行錯誤や繰り返す活動を組み入れた学習展開の工夫

「虫を捕まえない」「虫を飼いたい」という子どもが増えてきたところで、生き物探しをする。友達や教師と一緒に活動する中で、生き物が苦手な子どもも徐々に生き物に慣れていくようにし、一人一人が虫を育てることができるようにする。

世話をする活動では、「どんなえさが好きなのかな。」「どんなすみかが好きなのかな。」という思いをもって、えさやすみかを考えるようにする。子どものアイデアを生かしながら「お世話コーナー」などの場の設定をするようにする。また、「どうしたらむしさんが喜ぶかな。」「むしさんと仲良くなりたいな。」という思いや願いをもって、継続して世話ができるように、生き物と関わる活動を常時活動として繰り返すようにする。世話をする中で困ったことや疑問に思ったことが出てきたときは、図鑑などで調べたり、友達と話し合ったり、上級生に聞いたりし、試行錯誤しながら自分で考え、飼育ができるようにする。

単元の終末には、自分と生き物との関わりを振り返り、自分の生き物に手紙を書いたり、生き物の立場になって、自分への手紙を書いたりする。この活動を通して、自分の世話の仕方のよさや自分の頑張りや成長などに気付くことができるようにし、体験を通して学んだことをこれからの生活に生かしていくことができるようにする。

#### ② 伝え合う活動の工夫

子どもが生き物に心を寄せ、「伝えたい」という思いをもつことができるように、学習過程の様々な場面で伝え合いの場を設定し、「見付ける」「比べる」「たとえる」などの活動を促すように、声かけを行っていくようにする。

生き物を捕まえる場面では、「虫を捕まえない」という思いをもたせ、子ども同士の関わりを深めることができるように、どんな場所に虫がいるのかを伝え合う場を設定する。

常時活動では、グループで自分や友達生き物の健康観察を行うようにする。生き物の世話をしながら、生き物の特徴や触れ合い方の工夫など見つけたことを、自分の飼育に生かすことができるようにする。生き物との活動をした後は、「振り返りカード」をかき、自分の活動を振り返るようにする。振り返りカードは、何種類かのカードを作り、かきたい内容に応じて使い分けるようにする。カードをかいた後は、「おはなしタイム」を設け、自分の虫への思いや願い、気付いたこと、考えたことなどを伝え合うようにする。活動の終わりには、全体で振り返りを行い、自分の活動が生き物にとってどうだったか、そう思った理由を発表するようにし、子どもの気付きや思いを共有するとともに、次に自分がしたいことを考え、意欲的に活動できるようにする。

### ③ 学習評価の工夫について

教師は、生き物と関わる子どもの様子を具体的にとらえ、一人一人の思いや願いを実現していく過程を丁寧に見取るようにする。活動時間以外にも、子どもと対話し、子どもの思いや気付きを引き出していくようにする。見取ったことは、評価規準に照らして評価をし、個別支援表に記入していく。それを基に、子ども同士の伝え合いがうまくいくように支援をしたり、子どもに問いかけたり、適切な声かけをしたり、子どもの発言を価値付けたりして、子どもの思いに寄り添った支援をしていくようにする。

また、子ども同士の相互評価を取り入れたり、学習後は保護者へのアンケートを行ったりして、多くの目で子どもの姿をとらえるようにする。

## 4. 特別な教育的支援を要する子どもに対する指導上の工夫・手立て

困難さ	手立て	対象児童	番号
生きものを捕まえたり、飼ったりすることが困難	教師と一緒に活動したり、仲のよい児童と一緒に活動したりできるようにする。	A児 C児	①
どんな世話をすればよいか考えることが困難	世話の仕方をかいた図を見せながら、どの世話をするか教師と一緒に考えて、活動できるようにする。	A児 B児 C児	②
振り返りの場面で、思いをかいいたり、伝えたりすることが困難	生き物を見ながらしたことを聞き、友達に伝えたいことを教師と一緒にまとめ、伝えることができるようにする。	B児 C児	③

## 5. 単元の目標

生活への 関心・意欲・態度	○ 身の回りにいる虫などの生き物に関心をもち、それらを探して捕まえたり、それらのえさやすみかを意識して、大切に育てたりしようとする。
活動や体験についての 思考・表現	○ 生き物の育つ場所について考えながら探したり、えさやすみかや接し方を工夫して世話したりすることができる。 ○ 思いや願いをもって生き物を探したり、世話をしたりしたことを、絵や文等で素直に表現したり、伝え合ったりすることができる。
身近な環境や自分についての 気付き	○ 動きやえさなど生き物の特徴や、生き物にあった場所に気付く。 ○ 生き物は生命をもっていること、成長や変化していることに気付く。 ○ 飼育や友達との交流を通して、生き物への親しみが増した自分や友達のよさに気付く。

6. 指導計画と評価計画（総時数8時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ★特別な教育的支援を要する子どもへの特に困難とされる場面での支援	評価規準及び評価方法
<p>1 むしをさがそう。 [3]</p> <p>(1) 校庭にいる生き物を探す。 ②</p> <p>(2) 見付けた生き物を「おしえるよカード」にかいて知らせる。 ①</p>	<p>○ 見付けた生き物がどこにいたかを伝え合い、生き物の育つ場所に目を向けることができるようにする。</p> <p>○ 自分の虫かご等を用意するとともにみんなで世話をするための「お世話コーナー」をつくる等、生き物の世話をするための場づくりを行うようにする。</p> <p>★ 手だて①</p> <p>【安全への配慮】</p> <p>○ 生き物を触った後は、手洗いうがいをすることを促す。</p> <p>○ どこにどんな生き物がいるかを整理できるように、生き物を見付けた場所を「あやめがおかむしさんマップ」にシールを貼るようにする。</p> <p>○ 自分の見付けた生き物（バッタ・コオロギ・ダンゴムシ等）の様子や見付けた場所などを「おしえるよカード」にまとめるようにする。</p> <p>○ 国語科「しらせたいな 見せたいな」の学習と関連させ、自分の生き物の特徴や自分との関わりを友達に知らせることができるようにする。</p>	<p>【関】校庭などにいる虫などの生き物に関心をもち、生き物を意欲的に見付けようとしている。 (行動観察, 発言分析, カード分析)</p> <p>【思】生き物のいる場所を考えながら探そうとしている。 (発言分析, 行動分析)</p> <p>【気】生き物を見付けた場所の特徴に気付いている。 (発言分析, カード分析)</p>
<p>2 むしとなかよくなる。 [3]</p> <p>(1) 自分の生き物の世話をする。 ①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【常時活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康観察をする。</li> <li>・えさをあげる。</li> <li>・すみかをつくる。</li> <li>・そうじをする。</li> <li>・むしとお話をする。</li> <li>・触れ合う。</li> </ul> </div>	<p>○ 自分の生き物のことを考えて世話をできるようにする。</p> <p>○ 毎朝自分の生き物と友達の子の健康観察を行い、気付いたことや思ったことを「むしのけんこうかんさつ」にかき、グループで伝え合うようにする。</p> <p>○ 生き物がいた場所を参考にえさやすみかを考えるようにする。</p> <p>○ 自分と生き物との双方向の関わりができるように「むしさんとなかよしけいたい」などを使って生き物と話をし、気付いたことなどを「むしさんとおはなしカード」に書くようにする。</p>	<p>【関】生き物のことを考え、毎日の世話を欠かさずに進んで生き物と関わっている。 (行動分析・カード分析)</p> <p>【思】自分の生き物に合ったすみかやえさを考え、世話をしている。 (行動観察・カード分析)</p>

<p>(2) 生き物のことを考えて、世話をしたり、遊んだり、伝え合ったりする。②&lt;本時1/2&gt;</p>	<p>○ 生き物が死んだ場合は、死んだ理由を考え、子どもの気持ちに寄り添い、次の飼育に向けて励ますようにする。</p> <p>★ 手だて②</p> <p>○ 「〇〇ちゃんと仲よくなりたい」という子どもの思いから、生き物の世話をしたり、遊んだり、伝え合ったりした自分の活動が、虫にとってどうだったか考え、これからの飼育に生かすようにする。</p> <p>◎ 生き物の特徴や触れ合い方の工夫などを見付けることができるように、友達と話したり、友達の生き物と比べたりする活動を設定する。</p> <p>★ 手だて②</p> <p>○ 世話や関わり方についての自分や友達のよさに気付き、これからの関わりに生かすことができるように、「おはなしタイム」で自分の生き物の特徴・世話の工夫・触れ合い方などを伝え合うようにする。</p> <p>★ 手だて③</p> <p>○ 道徳科「どうぶつふれあいひろば」、体育科「表現遊び」と関連付けるようにする。</p>	<p>【思】自分の生き物への思いを深め、自分の生き物に合った世話を考えて、これからの飼育に生かすようにする。 (行動観察, 発言分析, カード分析)</p> <p>【気】世話や関わり方についての自分や友達のよさに気付いている。 (発言分析・行動観察, カード分析)</p>
<p>3 むしとのおもいでをふりかえろう。 [2]</p> <p>(1) 自分の生き物に手紙を書いたり、生き物から自分への手紙を書いたりする。①</p> <p>(2) これまでの活動を振り返り、これからの生き物の世話について考える。①</p>	<p>○ 生き物との関わりから生まれた思いや願い気付きなどを表現できるように、自分の生き物に手紙を書いたり、生き物から自分への手紙を書いたりする活動を設定する。</p> <p>○ 自分や友達のよさや成長に気付くことができるように、自分や友達の生き物との関わりについて振り返るようにする。</p> <p>○ 生き物がいた場所に返す、継続的に育てるなど、一人一人の思いを大切にしながら取り組みたい活動を考えることができるように、話し合う活動を設定する。</p>	<p>【思】生き物の世話をしたり関わったりしたことを手紙に書き、表現することができる。 (発言分析, 手紙分析)</p> <p>【関】自分たちの成長を実感したり、生き物との関わりを通して学んだりしたことを、これからの生活に生かそうとしている。 (発言分析, カード分析, 行動分析)</p> <p>【気】生き物と関わって生活する楽しさや、自分や友達のよさに気付いている。 (発言カード, 手紙分析)</p>








(1) 主眼

自分の生き物ともっと仲よくなりたいという思いをもち、えさやすみかななどを工夫して世話をしたり、遊んだり、伝え合ったりする活動を通して、自分の生き物への思いを深め、自分の虫に合った世話を考え、これからの飼育に生かすことができるようにする。

(2) 準備 子ども…自分の虫 虫かご えさ など

教師…振り返りカード など

(3) 展開

主な学習活動・内容	○指導・支援上の留意点 【観点】評価規準（評価方法） ★特別な教育的支援を要する子どもへの特に困難とされる場面での支援のポイント
<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>わたしの〇〇ちゃんは、何のえさがいちばんすきか調べて、友達に教えたいな。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                 めあて ぼくの わたしの 〇〇ちゃんと もっとなかよしになろう。             </div> <p>2 「なかよしタイム」の活動をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                 予想される活動                  ・えさをやる。                  ・すみかをつくる。                  ・そうじをする。                  ・一緒に遊ぶ。                  ・むしさんの観察をする                  ・おはなしをする。 など             </div>	<p>○ 前時を振り返り、生き物ともっと仲よくなれるように何をしようと考えているのかを発表し、本時のめあてへとつなぐようにする。</p> <p>○ 生き物のことを考えた活動ができるように支援する。</p> <p>○ 子どもが相互に関わり合いながら自由に活動することができるように、「おせわコーナー」「みるみるコーナー」「あそびコーナー」などの場を設定する。</p> <p>◎ 友達と話したり、友達の生き物と比べたりしながら、生き物の特徴やふれ合い方の工夫などを見付けることができるようにする。</p> <p>★ A児・B児・C児が活動できていない場合には、教師と一緒に活動したり、進んで活動している児童と一緒に活動したりするようにする。</p>
 <p>わたしの〇〇ちゃんにナスをあげたら、もぐもぐ食べたよ。ナスがおいしいって言って食べていたよ。</p>  <p>ぼくの〇〇くんは、ぼくの手の上でじっとしてたよ。逃げなかったよ。</p>  <p>ぼくの〇〇くとDちゃんの〇〇くんを一緒に遊ばせたら、跳ぶ競争をしたよ。仲よしになったよ。</p>	
<p>3 「おはなしタイム」で、グループの友達と伝え合う。</p> <p>〇〇ちゃんは、葉っぱも好きだけどナスが大好きだってわかったよ。やわらかいからかな。</p>  <p>「なかよしけいたい」で話したら、Dちゃんの〇〇くとまた遊びたいと言ってたよ。楽しかったからだね。</p> 	<p>○ 仲よしになるための自分の活動はどうだったかを振り返ることができるように、グループで伝え合いをして、?カード・!カード・♡カード・☆カード等のカードを選んでかくようにする。</p> <p>★ B児・C児が自分の思いを伝えることができなかった場合には、虫と一緒にしながら世話の内容を聞き取り、友達に伝えたいことを選んで伝えることができるようにする。</p> <p>【思】自分の生き物への思いを深め、自分の生き物に合った世話を考えて、これからの飼育に生かそうとしている。 (行動観察、発言分析、カード分析)</p>
<p>4 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。</p>	<p>○ 気づきを学級全体で共有することができるように、自分の活動が生き物にとってどうだったかを発表し、どうしてそう思ったか理由も伝えるようにする。</p> <p>○ 次時の学習についての見通しをもつことができるように、次時の学習でやってみたいことを伝え合うようにする。</p>
 <p>〇〇くとぼくは、なかよしになったよ。〇〇くんは、ぼくの手の上で、にげないで、うれしそうにしてたからです。</p>  <p>〇〇ちゃんに、今度はほかの野菜もあげて喜んでもらいたいです。</p>  <p>〇〇くんの虫さんみたいに、ぼくの〇〇くんにも友達をたくさん作ってあげたいです。</p>	
	<p>【安全への配慮】 生き物を触った後は、手洗いうがいをすることを促す。</p>